

【雑誌】 確かな病院選びのための地域情報 「東海の医療と病院」で篠田病院長と熊谷医師が疾患を解説

2022年11月に「確かな病院選びのための地域情報 東海の医療と病院 2023年版」が中日新聞社から発売されました。この雑誌は「名医に聞く医療最前線」「これから備えたい身近な病」「つながり・支える地域医療」の3つの特集で構成されています。

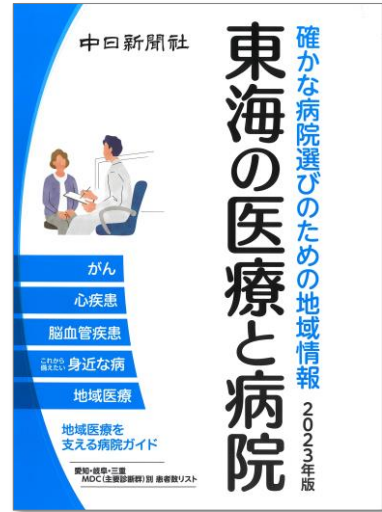
「名医に聞く医療最前線」では、脳腫瘍に関して当院の篠田淳病院長が解説しています。「これから備えたい身近な病」では、認知症の解説を熊谷守雄脳検診・認知症診療部長が行っています。

他の疾患においても、その多くを当院の関連病院である中部国際医療センターの医師が解説しています。

また、本年1月に開院した中部国際医療センターの紹介記事が掲載されているほか、同センターの救急部門も特集されています。

この本は、最寄りの書店でお買い求めいただけます。

(定価：1,000円)



特集 1 名医に聞く医療最前線【脳血管疾患】

脳腫瘍

より精密なメチオンINEPT検査が
腫瘍と、いわずとせざるのほど、腫瘍の診断に活用し
始めて脳腫瘍の診断に大きく貢献している。篠田淳院長が
解説する。

中部国際医療センター 脳腫瘍科 部長 中部国際医療センター
篠田 淳 院長 (脳腫瘍科 部長)

脳腫瘍は、脳や脊髄に発生する腫瘍の総称です。脳腫瘍は、脳細胞が異常増殖することによって発生します。脳腫瘍の種類や性質はさまざまで、悪性腫瘍と良性腫瘍があります。脳腫瘍の診断には、MRIやCTなどの画像検査が行われます。近年、メチオンINEPT検査などの新しい検査技術が開発され、脳腫瘍の診断に大きく貢献しています。篠田淳院長は、脳腫瘍の診断と治療に精通する専門家として、多くの患者様をサポートしています。

脳腫瘍の診断

脳腫瘍の診断には、まず脳腫瘍の存在を確認する必要があります。そのためには、MRIやCTなどの画像検査が行われます。また、脳脊髄液の検査や生検などの検査も行われます。脳腫瘍の種類や性質はさまざまで、悪性腫瘍と良性腫瘍があります。脳腫瘍の診断には、MRIやCTなどの画像検査が行われます。近年、メチオンINEPT検査などの新しい検査技術が開発され、脳腫瘍の診断に大きく貢献しています。篠田淳院長は、脳腫瘍の診断と治療に精通する専門家として、多くの患者様をサポートしています。

治療方法の選択

脳腫瘍の治療方法は、脳腫瘍の種類や性質、患者様の年齢や健康状態によって異なります。手術療法、放射線療法、化学療法などがあります。脳腫瘍の診断には、MRIやCTなどの画像検査が行われます。近年、メチオンINEPT検査などの新しい検査技術が開発され、脳腫瘍の診断に大きく貢献しています。篠田淳院長は、脳腫瘍の診断と治療に精通する専門家として、多くの患者様をサポートしています。

これから備えたい身近な病

認知症

根本的な治療に向けて進む新薬開発

認知症は、脳の機能が低下することによって発生する病気です。認知症の種類はさまざまで、アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症などがあります。認知症の診断には、医師による問診や検査が行われます。近年、認知症の治療薬が開発されています。また、認知症の予防やケアについても注目が集まっています。熊谷守雄部長は、認知症の診断と治療に精通する専門家として、多くの患者様をサポートしています。

熊谷 守雄 部長 (脳検診・認知症診療部長)

認知症は、脳の機能が低下することによって発生する病気です。認知症の種類はさまざまで、アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症などがあります。認知症の診断には、医師による問診や検査が行われます。近年、認知症の治療薬が開発されています。また、認知症の予防やケアについても注目が集まっています。熊谷守雄部長は、認知症の診断と治療に精通する専門家として、多くの患者様をサポートしています。

認知症の中核症状と行動・心理症状 (BPSD)

認知症の中核症状は、記憶力低下、実行機能障害、言語障害、視空間認知障害、知的機能障害、日常生活能力障害、社会行動障害、パーソナリティ障害、感情障害、行動障害、心理症状 (BPSD) があります。BPSDは、認知症の症状の一つで、認知症の診断に大きく貢献しています。熊谷守雄部長は、認知症の診断と治療に精通する専門家として、多くの患者様をサポートしています。